

平成 28 年度調査報告

- 1 瀬の再生によるアユのなわばり行動の回復
 - ・ 矢作川の 3 ヶ所において潜水によりアユの生息密度を観測した
 - ・ ソジバ(阿摺ダム下流約 700m)でのなわばりアユの生息密度が 0.02 尾/m² と他と比べて低いことを把握
 - ・ ソジバで礫を投入してアーマーコート化を解消した場所を造成する計画を立案し、実験用の礫を確保するとともに現地でメッシュ測量を実施

- 2 矢作川における天然アユの産卵場位置の推定
 - ・ 12 月 2 日から 3 日にかけて河口からの距離が 11km~35km の範囲でアユの流下仔魚の採集を 2 時間ピッチで 24 時間にわたって実施
 - ・ アユ仔魚の主な産卵場は、河口から 14.8km~31.7km にあると推定
 - ・ 11km~14.8km の範囲で流下数が 5 分の 1 に減少し、減少する要因の解明が課題

- 3 アユの遡上調査
 - ・ 左岸が耐震工事によってアユの遡上ができなかつたため、右岸魚道で実施
 - ・ 明治用水頭首工における天然アユの遡上数は、1003 万尾と 1998 年の観測開始以来、最多を記録

- 4 アユの産卵場に関する視察(高知県、新荘川および奈半利川)
 - ・ 11月17~18日にかけてアユの産卵場を視察した
 - ・ 人工造成した産卵場(奈半利川)と天然の産卵場(新荘川)を視察